

地域分散型エネルギーで地方創生を推進

バイオマスパワーテクノロジーズ株式会社

地元の未利用木材資源を活用する 木質バイオマス発電所を建設・運営

日本はエネルギーの8割が石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料に頼っており、そのほとんどを輸入している。東日本大震災以後、政府は再生可能エネルギー普及を推進してきたが、主力の太陽光発電は、夜間に発電できず、また天候に大きく左右されるなど課題も多い。

その中で、注目を集めているのが国内の未利用木材資源を燃料とし、24時間安定的に発電できる木質バイオマス発電だ。三重県松阪市で木質バイオマス発電所を建設、今年1月から商業運転を開始したバイオマスパワーテクノロジーズ株式会社の北角強社長は「木質バイオマス発電は安定した再生エネルギー。日本は『地下』資源に乏しいといわれているが、国土の7割を占める豊富な森林資源という

格買取制度で最高単価の40円を出資。同社の木質バイオマス発電所は、国内初の1990キロワットの直接燃焼方式による小型プラントで、再生可能エネルギー固定価格買取制度で最高単価の40

の小型プラントが活躍できる地域は多いだろう」と自信をみせる。また国内の他の大型木質バイオマス発電所は輸入バームヤシ殻を燃料にしているが、松阪市で得た知見

・ノウハウをもとに全国で木質バイオマス発電事業を推進していく。北角社長が目指すのは、地域単位でのエネルギーの自立を推し進め、化石燃料依存から脱却することだ。

「確かに都市部では難しいが、松阪市のような5万15千人程度の人口規模の市町村には、木質バイオマス発電所を建設し、再生可能エネルギー固定価格買取制度で最高単価の40円を出資。同社の木質バイオマス発電所は、国内初の1990キロワットの直接燃焼方式による小型プラントで、再生可能エネルギー固定価格買取制度で最高単価の40

の小型プラントが活躍できる地域は多いだろう」と自信をみせる。また国内の他の大型木質バイオマス発電所は輸入バームヤシ殻を燃料にしているが、松阪市で得た知見

・ノウハウをもとに全国で木質バイオマス発電事業を推進していく。北角社長が目指すのは、地域単位でのエネルギーの自立を推し進め、化石燃料依存から脱却することだ。

「確かに都市部では難しいが、松阪市のような5万15千人程度の人口規模の市町村には、木質バイオマス発電所を建設し、再生可能エネルギー固定価格買取制度で最高単価の40円を出資。同社の木質バイオマス発電所は、国内初の1990キロワットの直接燃焼方式による小型プラントで、再生可能エネルギー固定価格買取制度で最高単価の40

の小型プラントが活躍できる地域は多いだろう」と自信をみせる。また国内の他の大型木質バイオマス発電所は輸入バームヤシ殻を燃料にしているが、松阪市で得た知見

・ノウハウをもとに全国で木質バイオマス発電事業を推進していく。北角社長が目指すのは、地域単位でのエネルギーの自立を推し進め、化石燃料依存から脱却することだ。

「確かに都市部では難しいが、松阪市のような5万15千人程度の人口規模の市町村には、木質バイオマス発電所を建設し、再生可能エネルギー固定価格買取制度で最高単価の40円を出資。同社の木質バイオマス発電所は、国内初の1990キロワットの直接燃焼方式による小型プラントで、再生可能エネルギー固定価格買取制度で最高単価の40

「地上」資源がある。これを活用することでエネルギー自給率を高めるとともに、新たな市場を創出することができると熱く語る。

バイオマスパワーテクノロジーズには北角氏が代表取締役を務める株式会社イ

「当社が運営している木質バイオマス発電所は、未利用木材を余すことなく使って発電でき、既存の発電所や近隣の林業・木材生産事業者と連携し、木材の活用を促進している。現在全国で100カ所超の木質バイオマス発電所建設計画があるが、同様

係にある。この三重エネルギーの発電所が燃料として利用できなかった樹皮や枝葉、根などの歩留まり材もバイオマスパワーテクノロジーズの小型プラントでは使用できる。北角社長は

「当社のプラントは小型だが、未利用木材を余すことなく使って発電でき、既存の発電所や近隣の林業・木材生産事業者と連携し、木材の活用を促進している。現在全国で100カ所超の木質バイオマス発電所建設計画があるが、同様

係にある。この三重エネルギーの発電所が燃料として利用できなかった樹皮や枝葉、根などの歩留まり材もバイオマスパワーテクノロジーズの小型プラントでは使用できる。北角社長は

「当社のプラントは小型だが、未利用木材を余すことなく使って発電でき、既存の発電所や近隣の林業・木材生産事業者と連携し、木材の活用を促進している。現在全国で100カ所超の木質バイオマス発電所建設計画があるが、同様

係にある。この三重エネルギーの発電所が燃料として利用できなかった樹皮や枝葉、根などの歩留まり材もバイオマスパワーテクノロジーズの小型プラントでは使用できる。北角社長は

「当社のプラントは小型だが、未利用木材を余すことなく使って発電でき、既存の発電所や近隣の林業・木材生産事業者と連携し、木材の活用を促進している。現在全国で100カ所超の木質バイオマス発電所建設計画があるが、同様

係にある。この三重エネルギーの発電所が燃料として利用できなかった樹皮や枝葉、根などの歩留まり材もバイオマスパワーテクノロジーズの小型プラントでは使用できる。北角社長は

「当社のプラントは小型だが、未利用木材を余すことなく使って発電でき、既存の発電所や近隣の林業・木材生産事業者と連携し、木材の活用を促進している。現在全国で100カ所超の木質バイオマス発電所建設計画があるが、同様

係にある。この三重エネルギーの発電所が燃料として利用できなかった樹皮や枝葉、根などの歩留まり材もバイオマスパワーテクノロジーズの小型プラントでは使用できる。北角社長は

オンリーワンに生きる

〈115〉



北角強社長



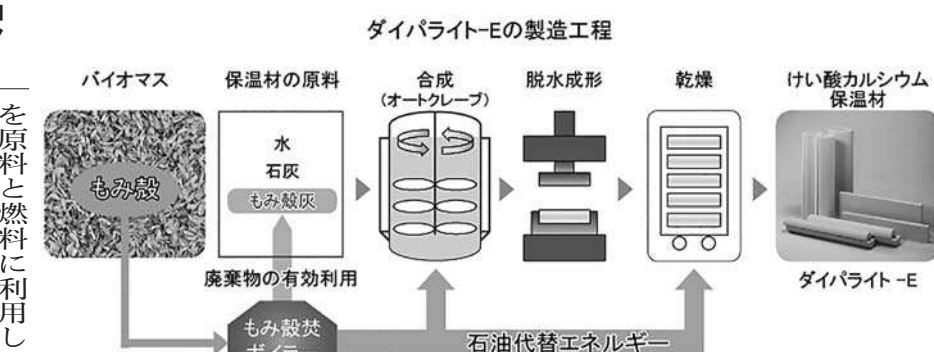
四方に設置したシーソー太陽電池パネルに名所の風景が浮かび上がっている

テント構造物・太陽電池パネルメーカーの太陽工業株式会社（大阪・荒木秀文社長）は、このほど、シーソー太陽電池パネルに、薄膜太陽電池パネルにレーザー光を照射し、太陽電池を部分的に除去することで透明にしたもの。加工技術で写真画像を描いたモノニュメントを神奈川県川崎市（エネジーセンター）内に設置した。東西南北の4面に、合計16枚のシーソー太陽電池パネルを備える（最大出力約1・36キロワット）。各面には、神奈川県庁を中心とした、東西南北の各方面にある名所の風景をモノクロ写真のように再現した。

淡も描写可能。今回完成した「モノニュメント」は、縦横5メートル×5・1メートル、高さ3・76メートルの鉄骨造で、横浜の風景をアビールすると共に、電力を発電し、再生可能エネルギーの導入加速化に取り組む神奈川県庁の姿勢を訪れた市民に印象付ける狙いがある。太陽工業は、世界に先駆けてシーソー太陽電池パネルの製品化に取り組み、1996年から販売を開始、従来の太陽電池パネルに備わる発電機能に加えて、光を透過する性質を活かし、各種公共施設や大型商業施設を中心に約200件の実績がある。同社は「今後は、図柄や写真などの描写機能を加わったことで、デザイン性を活かした情報発信にも期待が高まると予想される。それらニーズをかなえることで、人々の潤いあちる暮らしに貢献したい」としている。

バイオマス利用した工業用保温・断熱材「ダイパライト-E」発売

環境保全と優れた性能を両立



は、ベトナムで河川投棄されて環境汚染の原因となるもみ殻を有効利用している。従来の原料である、けい石の代わりにもみ殻灰を使うとともに、もみ殻を燃やす際に発生する熱を製造工程（合成・乾燥）で利用することで、CO₂排出量を大幅に削減した。この炭酸ガス排出抑制効果が地球環境保全に貢献すると評価され、ベトナムのアンサン省政府によって環境配慮型事業として認定を受けたほか、国際連合工業開発機関・東京投資・技術移転促進事務所の環境技術データベースにも登録されている。

「ダイパライト-E」はけい酸カルシウム、ゾノライトを基材にし、1000度の耐熱性を持ち、発電所や石油化学プラントなどの機器や配管の断熱に使用されている。製品規格はJISとASTM（米国試験材料協会）に対応。

だが、リッチ。地域資源も「無いものねだり」ではなく、こうした取り組みが新しい地域の価値創造につながっていくと信じている。そのため当社プラントを全国でバイオマス発電を推進していく人材の育成機関としても展開していきたい。

さらに全国でより一層安定的に燃料が調達できるように林業分野のイノベーションにも挑戦していく。例えば木材搬出にドローンを活用するなど、林業にも最新技術を導入し、イノベーションを起こしていきたい。勿論、むやみに伐採して売山にするのではなく適切に管理して持続的なエネルギー資源として維持していく」と将来を見据える。

また北角社長は社内での自身の役割についても信念がある。「当社の組織図は逆ピラミッド。従業員の皆さんこそ社の宝。社長は一番下で、従業員が働きやすいように下支えする。目標は日本一給料が高いバイオマス発電所。これは近い将来必ず実現させる」と意気込んでいる。

本社 三重県松阪市久保町502番地10
http://www.bpt.co.jp
(久保 涼)

見た目は普通のジャケット？
実は、襟と身頃が一体化の快適ウェア。

新発想の着用感をお試し下さい。



- 襟の形状保持
- 体感20%の軽量化
- 肩こり解消
- 洗濯が容易
- 省資源化

Biz Lapel

株式会社 サンリット産業

医療法人 敬生会 フジモト眼科



日帰り手術 白内障手術 2017年手術実績 1106件 硝子体手術 涙道手術

院長 藤本 雅彦 部長 藤本 陽子 副部長 井石 涼
近鉄南大阪線針中野駅下車 高架沿い南へ徒歩約2分
大阪市東住吉区湯里 1-3-22

06-6704-5561 フジモト眼科 東住吉区 検索